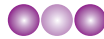




手術中心の医療を展開しています



理事・泌尿器科
部長
関 利盛



はじめに

私たちの施設では、腎臓移植外科と合わせて、年間1,000件近くの手術を行っています。その中で、最近前立腺がん地域連携ネットワークを立ち上げました。

まず前立腺がんの地域連携の紹介をしたいと思います。

前立腺がん地域連携について

地域完結型医療の展開を目的に、特に前立腺がんに関して2009年9月に札幌PSA研究会(Prostate Sapporo Association)を設立いたしました。目的は、専門的な医療を行う中核病院と、患者かかりつけの地域医療機関が、情報交換を交互に行うことで精度の高い、しかし暖かみのある医療を提供できるのではないかと考えてのことでした。専門的医療を担う泌尿器科病院には世話人になっていただきPSA研究会の運営を行うことにしました。2009年10月20日に内科の先生たちにも参加していただき、第1回札幌PSA研究会を行いました(表1)。

実際の運営面や、かかりつけ医療機関ならではの疑問などが取り上げられ、盛会のうちに終了しました。第1回は特にかかりつけ医療機関でのPSA測定と専門医療機関への紹介の時期が焦点になりました。

第2回PSA研究会では、前立腺がんの治療についてホルモン療法、放射線療法、手術療法につき各専門の先生たちから講演をいただく予定です(表2)。2010年7月8日(木)、18時30分から行う予定ですので是非多数の皆様に参加していただき私たちの企画に参加していただきたいと思います。

表1：第1回札幌PSA研究会 報告

開会の挨拶

中田泌尿器科病院 院長 中田 康信先生

Session1 座長:市立札幌病院 副院長 富樫 正樹

前立腺がんの診断と治療について

市立札幌病院泌尿器科 副医長 望月 端吾

前立腺がんの医療連携について

市立札幌病院 理事 関 利盛

Session2 パネルディスカッション 座長: 関 利盛

パネリスト(札幌PSA研究会 世話人会)

石川泌尿器科院長

石川登喜治先生

いのけ医院院長

猪野毛健男先生

坂泌尿器科病院院長

坂 文敏先生

中田泌尿器科病院院長

中田 康信先生

宮の沢泌尿器科クリニック院長

小林 真也先生

表2：第2回札幌PSA研究会 ご案内

平成22年7月8日(木曜日)18:30より

講演

*前立腺がん治療最前線

当院の前立腺がんホルモン治療

中田泌尿器科病院 副院長 谷口 明久先生

限局性前立腺がんに対する定位放射線療法

坂泌尿器科病院 診療副部長 横尾 彰文先生

開放前立腺全摘について

市立札幌病院泌尿器科 副医長 望月 端吾先生

鏡視下前立腺全摘除術

北海道大学病院腎泌尿器外科講師 佐澤 陽先生

*前立腺がん地域連携パス

市立札幌病院 理事 関 利盛

泌尿器科の活動について

泌尿器科が取り扱っている疾患は、多岐にわたっています。小児領域の先天性疾患（膀胱尿管逆流症、腎盂尿管移行部狭窄症、尿管瘤など）から、成人の尿路悪性腫瘍、神経障害や婦人泌尿器科特有の尿失禁など、あるいは腎血管性高血圧、副腎疾患による高血圧など多方面の疾患に、主に手術で対応しています。特に腹腔鏡手術には精力的に取り組み、腎尿管悪性腫瘍のみならず膀胱がんに対する膀胱全摘まで腹腔鏡で行っています。当院腎臓移植外科とも共同で腎移植にも積極的に取り組んでいます。また、他院では扱われることの少ない腎血管異常に対しても自家腎移植を含めた総合的な治療で対応しています。道内でも有数の泌尿器手術を行う急性期病院です。

学会活動も積極的に行っており、08年は学会報告65題（内国際学会5題）、論文発表9編を行っています。いずれも当科での臨床実績を報告したものです。

症例数・治療・成績

2008年の総手術件数は888件でした。主な手術件数は副腎摘出術21件（内腹腔鏡20件）、腎がんに対する根治的腎摘出術47件（内腹腔鏡44件）、腎部分切除術15件（内腹腔鏡12件）、尿路上皮がんに対する腎尿管全摘術14件（内腹腔鏡11件）、腎移植40件（死体含む）、ドナー腎摘出術38件（全て腹腔鏡）、膀胱がんに対する膀胱全摘術19件（内腹腔鏡18件）、前立腺がんに対する前立腺全摘術28件（全て開腹）、腎がん及び腎血管異常にたいする体外腎形成+自家腎移植術2件、精巣腫瘍に対する後腹膜リンパ節郭清術2件（内腹腔鏡1件）、小児神経因性膀胱に対する腸管利用膀胱拡大術1件、経尿道的前立腺切除術91件、経尿道的腫瘍切除術107件、そのほか小児急性陰嚢症、小児腎盂形成術、逆流防止術などを行っています。結石治療に関しては体外衝撃波結石破碎術（ESWL）94件（ほとんどを外来中心で行っている）、そのほか経尿道的尿管結石砕石術（TUL）や経皮的腎砕石術（PNL）も症例によっては行っています。尿路上皮がん、ホルモン不応答となった前立腺がん、精巣がんに対する化学療法も行っており、特に患者さんや患者家族のQOLを考慮した医療を目指しています。



泌尿器科・腎臓移植外科医師

前列左より：高田・原田・佐藤・村橋医師
後列左より：望月・富樫・関・堀田医師

最後に

より低侵襲で、安全に手術を行うことを主眼に医療を展開しています。特に尿路悪性腫瘍に対してはほとんどを内視鏡手術で行っており術後疼痛や、入院期間の短縮が図られていると思っています。ほとんどの疾患はクリティカルパスを適応しています。また今年度は、前立腺肥大症に対しても従来の経尿道的手術とは異なり、生食を使用するTURisを導入し、さらに低侵襲な前立腺手術が行える体制を整えたと考えています。地域連携をさらに推進し、患者さんとかかりつけ医療機関を結ぶ橋渡し役の一翼を担いたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

